

新まちづくり計画（H16～18）事業総括調書

施策体系コード	その他		事業名	学校施設改築事業
担当	教)計画課 沼田 211-3835			
全体計画（当初）				
事業内容	児童生徒の安全確保及び教育環境の改善を図るため、耐震性能が低く、かつ、老朽が著しい学校施設について、国庫補助(負担)資格を有することを原則とし、文部科学省の改築基準(耐力度点数5000点以下)を満たす施設を対象として改築を行う。 改築事業は、1年次目に基本設計、2年次目に実施設計等(仮設校舎建設を含む)、3年次目以降に建築工事(校地造成等を含む)を実施する。		<年度別の事業内容> 平成16年度 小1校(手稲東小) 平成17年度 小1校(円山小) 平成18年度 小1校(信濃小) 中1校(伏見中)	
事業内容 (量・場所・規模等)	平成16年度事業内容(決算)		平成17年度事業内容(決算)	
	小学校改築(手稲東小、円山小) 1,932,428千円 小学校用地取得(円山小) 58,170千円 小学校基本設計(信濃小) 4,541千円 中学校基本設計(伏見中) 4,568千円		小学校改築(信濃小、円山小、手稲東小) 2,043,124千円 小学校用地造成(円山小、手稲東小) 162,000千円 中学校改築(伏見中) 267,400千円 中学校基本設計(東白石中、羊丘中) 11,000千円	
事業内容 (量・場所・規模等)	平成18年度事業内容(決算)		評価(成果)	
	小学校改築(信濃小) 2,175,913千円 小学校用地造成(信濃小) 2,415千円 小学校基本設計(北郷小、平岸西小) 17,039千円 中学校改築(伏見中、東白石中、羊丘中) 1,928,384千円 中学校用地取得(伏見中) 109,430千円 中学校用地造成(伏見中) 2,242千円		建築年次が古く、かつ、老朽が著しい建物で文部科学省の改築基準(危険建物の認定)を満たしている建物、また、耐震性能が確保されていない建物を改築したことにより、良好な教育環境を確保し、児童生徒の安全確保、地域住民の避難場所としての性能を確保することができた。	
			課題	
			策定作業を進めている札幌市立小中学校の適正配置計画との整合性を図り、改築校に隣・近接する学校の将来規模等を勘案し、効率的な学校配置が可能と判断される場合は当該校及び隣・近接校の改築時期の調整を図る等、将来的に小規模校を点在させないような計画が必要となる。	
19年度以降の方向性・事業の予定				
19年度以降、年2～3校ペースで改築を実施する予定。この場合の事業費としては、年40億～60億円程度が見込まれる。なお、文科省は国の財政事情などから、「改築」よりも「耐震補強・改修」に重点を移している。				

